

仕様書別表1 システムサービスに関する機能要件

機能分類体系				回答欄			
大項目	中項目	小項目	要件	事業者名 ()			
				サービス名 ()			
				対応可否	備考 (判断に困るもの、オプション等で対応する場合など特記があれば可能な範囲で記載ください。)		
■基本要件							
共通事項	サービス提供環境	機器環境	1	Google Chrome、Microsoft Edge、Safariの各ブラウザに対応していること。			
			2	システムの利用にあたり、端末へのアプリケーションのインストールが必要な場合、標準的なMDMツール等により、極力使用者の本体操作不要でインストールできること。 なお、 <u>項番1の対応可否が「○」であり、端末へのアプリケーションのインストールが不要である場合は、本項目には「○」を記入すること。</u>			
		データ管理	3	操作端末内ストレージ以外に、クラウド環境等を活用してデータを保存できるようにするとともに、利用者認証により、どの操作機器からでもデータを利用できるようにすること。			
		利用形態	4	児童生徒の家庭において、家庭が所有する端末を活用して学習に取り組むことができること。なお、使用端末のOSは仕様書7(1)Aに示す3OSとする。システムがブラウザで動作する場合は、 <u>項番1に示す3ブラウザのいずれかであるものとする。</u>			
	デザイン・操作性	操作性	5	児童生徒及び指導者にとって詳細なマニュアル等を見なくても感覚的に操作ができるインターフェースであること。			
	情報セキュリティ	システムログ	6	エラー情報の把握やUI/UXの改善に必要なログ情報を取得すること。または、発注者にて簡単にログ抽出でき、受注者側へ報告する仕組みを有すること。			
			アクセス・操作ログ	7	アクセスログ・操作ログを取得すること。		
			不正プログラム対策	8	システム（サービス）の稼働環境及び開発・テスト環境においては、コンピュータウイルス等不正プログラムの侵入や外部からの不正アクセスが起きないよう対策を講じるとともに、それら対策で用いるソフトウェアは常に最新の状態に保つこと。		
	9	システム（サービス）の稼働環境及び開発・テスト環境で用いるOSやソフトウェアは、不正プログラム対策に係るパッチやバージョンアップなど適宜実施できる環境を準備すること。					
	統計機能	—	10	学校管理者にて、自校の登録者数、アクティブ利用者数、機能ごとの利用数などサービスの運用状況や利用状況を定期または任意の時点で集計し、確認できること。			
■類型毎に異なる機能要件							
アプリ機能要件	共通	入力機能	11	手書き入力に対応していること。			
			12	キーボード入力に対応していること。			
			13	画面タップ操作に対応していること。			

記入用凡例
○：対応可(R7.3時点で実装予定の機能も含む)
△：その他（代替手段等により対応可）
×：対応不可

機能分類体系				回答欄			
大項目	中項目	小項目	要件	事業者名 ()			
				サービス名 ()			
				対応可否	備考 (判断に困るもの、オプション等で対応する場合など特記があれば可能な範囲で記載ください。)		
			14	マウス操作に対応していること。			
			15	数式入力に対応していること。			
			16	縦書きの文字入力に対応していること。			
		共有フォルダ設定機能	17	指導者用、児童生徒用、クラス用など利用者の認証情報に基づいてアクセス制御された共有フォルダを設定することができること。			
管理者機能	授業準備	教材準備・配布	18	教材へ、画像を貼り付けすることができること。			
			19	教材へ、音声を貼り付けすることができること。			
			20	教材へ、動画を貼り付けすることができること。			
			21	教材に、生徒が動かすことができる文字や画像などのオブジェクトを設定できること。			
			22	整序問題や穴埋め問題など、様々な課題を作成できること。			
			23	作成・配布した教材等に、どの授業で利用したのか(学年・組・日付・時限・単元名等の情報)を関連付けすることができ、これらの情報で検索することができること。			
			24	授業で教員が教材作成・配布に利用した教材に、児童生徒が作成したカードの情報を関連付けできること。			
			25	教材を児童生徒へ配布することができること。			
			26	同じ教材を複数のクラスに一括配布することができること。			
			27	教材に、開始時間を設定できるなど、教材の使用開始前の操作を制限できること。			
			28	教材に、締切時間を設定できるなど、教材の使用終了後の操作を制限できること。			
				生徒管理	29	授業単位に学習者のグループが設定できること。	
			授業支援	授業中の指導	30	指導者用端末から、児童生徒の端末(教材)に、リアルタイムで添削やアドバイス、指示ができること。	
					31	指導者用端末から、児童生徒の端末(教材)に、オンデマンドで添削やアドバイス、指示ができること。	
32	児童生徒間でのデータの送受信ができること。						
33	項番33について、送受信の可否は、授業ごとに設定できること。 なお、項番33の対応可否が「×」の場合は、本項目には「×」を記入すること。						
34	指導者用端末の画面を、児童生徒用端末にリアルタイムで画面共有できること。						
35	指導者用端末で、1人の児童生徒の回答を選択し、全員に共有することができること。						
36	指導者用端末で、複数の児童生徒の回答を選択し、全員に共有することができること。						

記入用凡例
○：対応可(R7.3時点で実装予定の機能も含む)
△：その他(代替手段等により対応可)
×：対応不可

機能分類体系				回答欄				
大項目	中項目	小項目	要件	事業者名 ()				
				サービス名 ()				
				対応可否	備考 (判断に困るもの、オプション等で対応する場合など特記があれば可能な範囲で記載ください。)			
			37	指導者が複数の児童の回答を選んで比較画面を作成可能なこと。				
			38	回答一覧から回答を確認できること。また。提出順や更新順などに並べ替えができること。				
			39	回答一覧画面で回答の大きさを拡大・縮小できること。				
			40	回答を一覧から選び比較することができること。				
			41	児童生徒が入力した回答を分析し、可視化して確認することができること。				
			42	選択肢の設問では、選択肢の集計結果から、クラス全体の傾向を確認できること。				
			43	児童生徒同士の回答閲覧や、いいね・コメントを用いたやり取りを指導者用端末で確認ができること。				
			授業後	44	授業に対する評価を授業ごと、児童生徒ごとに記録することができること。			
				45	児童生徒が取り組んだ活動を時系列で学習記録として保存できる機能を有すること。			
				46	児童生徒からの提出物を採点や添削など行い、返却することができること。			
		47		児童生徒の学習成果物は授業単位で評価付けができること。				
		48		児童生徒の学習成果物を成績情報として学期を通じた評価等に活用することができること。				
		49		児童生徒 別の学習成果物は授業単位で管理されていること。				
		50		提出された課題や、課題に対する採点結果をCSV等のデータで出力できること。				
		管理	51	教育委員会用アカウントで、仕様書7(2)エ、オ、カ、キに示す管理操作を所管する各学校に対し行えること。				
			52	児童生徒ログインは、ユーザID・パスワード等を利用し、システム独自の利用者認証により行えること。				
			53	児童生徒ログインは、本市が運用する既存の教育アカウント（本市ドメインのGoogle Workspace for Educationアカウント）と連携し、シングルサインオンできること。				
		児童生徒側機能	学習活動	資料の作成	54	WEBサイトの閲覧を可能とし、必要に応じてスクリーンショットを資料に挿入することが可能であること。		
				協働学習	55	グループごとに教材を共有して、リアルタイムに編集可能で、編集した教材についてはグループ全員が更新されること。		
					56	作成したカードをクラス内の他の児童生徒や指導者に提出（共有）することができること。		
57	児童生徒同士で回答を閲覧し、相互にコメント等を送れること。							

記入用凡例
○：対応可(R7.3時点で実装予定の機能も含む)
△：その他（代替手段等により対応可）
×：対応不可

機能分類体系				要件		回答欄	
大項目	中項目	小項目		要件	事業者名 ()		
					サービス名 ()		
					対応可否	備考 (判断に困るもの、オプション等で対応する場合など特記があれば可能な範囲で記載ください。)	
			58	児童生徒が自分自身の画面を指導者、学級内の他の児童生徒に対して、リアルタイムに画面共有を行うことができること。			
		課題の提出	59	指導者用アプリが起動していても、児童生徒は提出することができること。			
		評価の確認	60	学習成果物に対する評価を、成績情報として確認できること。			

記入用凡例
○：対応可(R7.3時点で実装予定の機能も含む)
△：その他（代替手段等により対応可）
×：対応不可